

海外展開に関する現状把握と課題整理に向けて

我が国事業者の海外展開に関する現状把握・課題整理に向けて、今回の協議会の設置に際し、各業界団体から我が国事業者の現状認識や期待について意見を聴取した。主な意見の概要は以下のとおり。

(1) 海外事業を実施する上で懸念している事項

契約内容の解釈の違いや支払い・税負担に関するトラブルのほか、相手国の政治・社会情勢に左右されることなどが挙げられた。

(2) 海外展開を進めていきたい分野

「ダム、給水関連分野を進めていきたい」、「防災・砂防、水力発電等の分野と連携して進めたい」という意見があった。

(3) 海外事業への参入にあたり必要な情報

対象国の制度やニーズは、国内外の公的組織・民間の海外拠点等の他、国内の業界団体が実施している研修会・セミナー活動や文献調査、現地での業務活動を通じて情報収集にあたっている。

一方、相手国及び日本政府が有するより詳細な情報、相手国の法制度、税制、事業に関する各種データ、規制やリスク等に関する情報を必要としている。

(4) 日本に優位性があると考えられる分野

調査設計段階では総合的な計画策定や複合分野にまたがるプロジェクトの構築などが、施工段階ではダム施工やダム再開発、軟弱地盤・不良地盤対策、IT関連技術などが、運営・維持管理段階ではダム管理に関するものなどが挙げられた。

(5) 国及び水資源機構に対する期待

案件形成、調査・設計、建設、運営・維持管理の各段階において、公的機関同士であることから入手できる、相手国が水資源分野の事業を進めるにあたってのニーズ、重視している点等の情報を共有することで、日本企業の参入しやすい環境づくりを望む意見が示され、特に案件形成に関するものが多くを占めた。

以上を踏まえ、水資源分野における海外インフラ事業への我が国事業者の円滑な参入を図るため、海外展開に関する現状把握と課題整理について、以下に着目し、議論を深めることにしたい。

<論点>

- 日本に優位性のある技術や他国の技術との比較について
- 日本に優位性があると考えられる施工条件、技術水準等について
- 水問題を総合的に解決するパッケージでの提案について
- 情報収集を進める案件について
- その他